

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月29日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670102518
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ荒田
所在地	鹿児島市下荒田2丁目1-27 (電 話) 099-812-3866
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年5月29日

【情報提供票より】(21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	6 階建ての	3 階 ~	6 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 入居者の概要(5月1日現在)

入居者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	10 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85 歳	最低 72 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人春風会田上記念病院、西歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

電車通り沿いに建ち、玄関を入るまでは市街地の賑やかな感じがあるが、室内は笑い声や話し声が心地よく響く落ち着いた空間となっている。ペットを飼っている入居者がおり、入居者、職員の人気者となり入居者が和める環境が整っている。建物は落ち着いた雰囲気、日中は入居者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど、支えあいながらも楽しくすごすことができる。同一法人に医療機関もあり、入居者の健康管理を行い家族からの信頼も厚い。また、入居者が楽しめる行事も多く、入居者・職員も明るく話しやすい雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合わせ、評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者と職員が項目ごとに話し合った結果をまとめた。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者、家族の代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センターからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。ただ昨年の外部評価結果を報告しているか、書面で確認できなかった。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。苦情相談窓口については玄関に掲示し利用開始時には文書により家族にお知らせしている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ入会し催事に積極的に参加している。月に一回の早朝掃除に参加するなど地域に溶け込もうと努めており、地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割が意識できるように法人としての作り上げた理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、毎日の朝礼において唱和し、問題があるときは、理念の具体的な実践について研修を行い、話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ入会し催事に積極的に参加している。月に一回の早朝掃除に参加するなど地域に溶け込もうと努めており、地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合われ、評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族の代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センターからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。ただ昨年の外部評価結果を報告しているか、書面で確認できなかった。	○	年1回の評価の効果をより高めるために、取り組みや改善経過のモニター役として、運営推進会議で自己評価の説明をしたり、外部評価の結果を公表することなどが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に頻りに訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや金銭管理は、訪問時に報告されており、個々にあわせた報告がなされている。入居者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。苦情相談窓口については玄関に掲示し利用開始時には文書により家族に知らせている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、お便りの中で紹介するなど入居者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会が定期的に行われ、施設外研修については職員に紹介し、事業所が受講費用の負担をするなどの配慮がなされている。職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、法人内ホームだけでなく、近所のホームの職員、入居者と散歩先で世間話をするなど交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が、料理の下ごしらえなどをする中で共に過ごす関係を築いている。体を動かすレクリエーションや音楽活動、生け花も頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取りケア会議などで職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえケアマネジャーと職員が話し合い介護計画を作成している。主治医とは受診ノートを作成し、丁寧な連絡が取られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行い、毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討しているが1月に1回程度のケアの見直しや検討が書面で確認できなかった。	○	安定しているような利用者の場合も、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し健康管理を行い、通院介助や家族の宿泊の支援など臨機応変な対応をしている。また、町内会に職員を講師として派遣できる体制を整えており、町内会に声をかけるなど地域に貢献しようと努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を大切に決めていく。受診時は受診ノートを活用するなど確実な情報伝達に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で作成した重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事務所に個人情報の保護方針や利用目的についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。入居者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは本人の体調などを配慮し、外出やリハビリなど本人の意向を確かめながら決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞のレシピ欄を見ながら食事の希望や食欲を引き出す工夫をしたり、旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらうよう努めている。会話を楽しみながら職員も一緒に食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけや入浴剤を利用するなど気持ちよく楽しめる工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や洗濯、プランターでの花作り、ペットの飼育、フラワーアレンジメント、梅干づくりなど、一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し、支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に本人の気分や天候に応じて買い物、散歩などで屋外に出るように支援している。 また、定期的にドライブや地域行事への参加を支援するなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、入居者の状態を把握し、入居者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩やドライブに出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防関係者や地域住民の協力を得て定期的な訓練が行われている。夜間を想定した避難訓練は平成19年に行われているが、定期的に訓練が行われているとはいいがたく、非常時の備蓄も十分とはいいがたい。	○	一番危険なのは夜間帯での災害と考えられるので、定期的に夜間帯での訓練や非常時の備蓄の管理が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1400キロカロリーの食事提供と水分1300ccを目安にしている。食事の量や水分摂取量は個人別の記録に全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握されている。嚥下に支障のある入居者には、ソフト食やとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや畳スペースは思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がたまたよい、居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものが持ち込まれている部屋もあれば、シンプルな部屋もある。部屋には仏壇、家族写真やお便りなどが飾られ居心地よく過ごすことができるような配慮が感じられる。		